

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	平成29年6月21日(水)
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前9時30分
出 席 者	委員長 我妻 薫 副委員長 山岸 三男 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 鈴木 宏通 委員 前原 吉宏 議長 吉田 眞悦
欠 席 者	委員 千葉 一男
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 高橋 秀彰
協 議 事 項	・農商工連携による活性化について (行政視察の件)
そ の 他	
閉 会	午前10時13分

2号様式 協議の経過

我妻委員長

おはようございます。急に常任委員会にお集まりいただき、ありがとうございました。懸案になっている所管事務調査の件について急いで確認したいと思ってきょうの会議設定になりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

千葉議員は決算審査のため欠席しておりますが、委員会6名出席しておりますので、委員会は成立しております。今、冒頭であいさつの中でもふれましたが、今日の協議事項は、農商工連携の活性化についてのうちの所管事務調査に絞って協議したいと思いますので、よろしくお願いします。

お手元に何種類か資料をお届けしていますが、内々に口頭でそれぞれみなさんには栃木県の足利市で進めていますとお伝えしてきたと思いますが、鈴木さんの協力を頂きながら群馬県とか東北とか、一泊で可能な範囲でということいろいろ検討してまいりましたが、結果としてこの栃木県の足利市、その中では特にもうお手元に配っていますが、笠原産業の、こっちは大麦かな、あとはSCBと書いてある方、これは大麦工房ロアという組織でこっちは大麦ですね、笠原産業が小麦ですね、この2つの産業が農商工連携の88選に2つとも入っている組織でございまして、ただ、それと直接足利市の取り組みがどのように関係しているのかということも一つの課題かなと思いますが、足利市は足利市なりに、一枚紙に「あしかが産学官連携推進センター体系図」がありますが、市内とか管内のいろいろな団体が集まって連携を取り合っていると、そういう一つのケースがあるということ、あともう一つは中小企業及び小規模企業振興条例というのが今年の4月に施行されまして、中小企業の振興施策を強めようというその辺の市の施策と先ほど前の方に言った2つの産業の組織、そことの関連性、どのように市が関わっているのか、その辺についても参考にできるのではないかと、そういうところが副委員長とか、あとさっきも言いました鈴木さんのご協力を頂きながら、ここに所管事務調査をしてはどうかというところで、今日皆さんにご相談したいということでございます。資料も若干説明しながら提案しましたけども。ちょっと目を通してもらう時間が必要ですか。

(「いいんだ、説明もらえさえしたら」の声)

さっき大雑把に説明しましたこの笠原とロア、どちらも農商工連携88選に選ばれている企業ということで、片方は大麦、片方は小麦、その辺についても我が町としても転作関係で麦栽培なんかもやってる、あとは最近うちの近くの農業法人では大麦の栽培なんかも現に手をかけているという、そういう状況もございますし、そうしたら・・・地場の特産もね、あるい

	はそれを使った・・・とかそういったところの一つの・・・ということも含めて、ちょうど大麦と小麦と2つ分かれてるんですよね、それから農商工連携の2つの組織の特徴・・・。どちらも50人くらいの従業員規模ですね。 何か確認というか、補足するにもあまり、私もこの資料を見る程度の状況ですから、細かいことはお答えできませんが、副委員長にも見ていただいてまして。
山岸委員	まず、皆さんこの会社というか、視察先としてここでみなさんよろしいかどうかということが一つと、あと日程です。
我妻委員長	まず、どうですか、この2つ、農商工の2組織、それに足利市との関わりをテーマに視察を行うと、いいですかそれで。
前原委員	約10年近くなっているという形ですか。
我妻委員長	そうですね。どちらもかなりね。この農商工やった当時の市の取り組みというのはそんなに無いと思うんだけど、まあそこもどれだけ関わりがあるかお伺いしたいんですが、その後、市の産業施策にどういうふうに関連付けられているか、そういうところも我々教訓にできるかと思いますので。
前原委員	興味ありますね。
我妻委員長	それにさっき言ったその足利の産学官連携の推進とか、これを見ても分かる通りですね、商工会は入っているんですが農業組織は入っていないんですよ、この産学官連携図に。ただ、小山の工業高等専門学校という学校もね、専門学校ですけどもこういう若い人たちもいる高校に近いようなところなんかも入った、あとこういった連携と麦わら帽子の会というのがありますが、この麦わら帽子の会の会員ってすごいんですね。いろんな近くの組織というか店屋とかそういったものが入って、「食文化の創造と社会的貢献型企業を目指して」という麦わら帽子の会、それが笠原産業の関係で出てるということで、こうしたお互いの連携というのがどのようにつくられているのかというもうちの方の課題でもあると思っているんで。 よろしいですか、ここで。 (「はい」の声) 詳細はまたもう一回どういった質問をするかをみなさんにお諮りしたいと思います。 一泊二日なので、2カ所というのはなかなか、鈴木さんとも話して「近くの群馬か」なんて話もあったんですが、とてもじゃない、移動するだけで大変なので、今回は足利市と2つの産業のどちらかを見せてもらえるか。 (「市と笠原産業だな」の声) 笠原とあと大麦の、大麦の方はパンとか菓子とかそっちのほう、笠原産業の方が麺類かな。両方というのはなかなか。市の方からある程度説明は頂けるかと思うので、現地でいけるかどうかは

	両方というのは、もっともできればいずれか見させてもらえば、話を聞かせてもらえればいいかなと。できれば麦わら帽子の方が、いろいろな連携から言っても笠原産業の方がいろいろな連携もあるのかなと思いますね。 （「商工会議所も入ってるからね」の声） それではですね、足利市の2つの組織をテーマに所管事務調査を行うということで確認したいと思いますし、日程なんですが、事務局の高橋さんに随分骨を折っていただきまして、最初は副委員長と「8月の頭か」なんて話で打診してもらってたんですが、8月に入ると向こうがいろんな取り組み、祭りの手配、取り組みだけで手一杯で無理ということで、どうしても7月中にということになりました。7月中といっても7月末になると、また向こうの方もまたその催し物の準備等がありますので、第3週かなというところで18日の週、はっきり結論的に向こうと打診したのは20、21で調整がやっとついたという段階でございます。課題だったのが21日に議会だより編集委員会を予定しているということで、そこをなんとか調整いただけないかということで、議会だより編集委員長さんとも協議している状況なんですが、調整していただければ20、21でいきたいと思うんですがどうでしょうか。
山岸委員	委員長の方が良ければ。
前原委員	前倒しで、編集会議を実質1回目が10日にやって、2回目がすぐ14日ですよね。一番最後のやつを、21日のやつを前倒しして19日に。 （「19日だよな、9時30分」の声） はい。一応そういう予定で。 （「7月19日に編集委員会するのな」の声） はい。編集委員会、最後のです。
我妻委員長	じゃあそういうことで7月の20日、21日の日程で、あとは詳細はですね、詰めますけども、古川8時ごろの新幹線で行くと11時ごろかな、午前中になんとか着きそうなんです、お昼頃には。そして午後の一番で足利市の方にお邪魔して。高橋さん、笠原産業とか足利市に何か言っていました。
高橋主事	いや、まだその話まではできていないです。
我妻委員長	もしできれば、その日か次の日の午前中にでも関連どちらかね、紹介してもらってお邪魔させてもらえれば、ただ足利市との関係は20日の午後ということだけは確認していますんで、その辺はこれからさらに詰めますけど、委員長と事務局の方にお任せしてもらっていいですか。 （「はい、お願いします」の声） 小山まで新幹線で行って、小山から足利線だっけか。（「在来線」の声）在来線。（「小山ね」の声）小山に止まる新幹線で行くしかないね。（「仙台

	から各駅停車で」の声)古川発ので止まる新幹線。(「あるんですか」の声)うん、いつころだったかな、ちょっとネットで最近調べた。 じゃあそういうことで7月の20日、21日、足利市ということで進めさせていただきます。足利市の方にまず行って、市の方で二つの組織のことについても一応説明を頂きながら、市との関わり等々を中心に。 内容をですね、この栃木県足利市平成29年8月の一枚ペラ出しました、これ高橋さんに足利市と調整してもらう意味で一応3点ほど、副委員長ともこの、の3つの点で打診してみようということでメモした内容です。さっき言ったようにこのの方は産学官連携の取り組みということは市の取り組みで、の方の中小企業及び小規模企業振興条例制定、これさっきも言いましたように今年の4月に施行の条例です。これ副委員長にも聞いたら、商工会の方でも今、各自治体で条例化を求める動きがあるようなんです。うちの方はまだできていませんし、この辺のいきさつとか目的とか、そういったものの取り組みを、はさっき言ったようにいろいろな管内の連携のあり方というふうになると。ですからとを中心にしながら足利市の地場産業の形成、産業形成ね、をどう考えているのか、それを聞きながら、3点目はその関連、市の関連でこの2つの農商工連携の取り組みにどのように足利市として関わりを持っているのか、市の産業行政とどう関わりがあるのか、その辺についてこの3点で一応柱に聞いてみようということでメモしたものです。 高橋さん、もっと細かくということなのかな。
高橋主事	そうですね。先に伝えた時には、特にの振興条例制定についてどういうことを聞きたいのかももう少し具体化してほしいということを伺っていました。
我妻委員長	振興条例というのは、これもお手元にね。
山岸委員	4月にまだ条例化したばかり。遠田商工会でも町の産業振興課に振興条例については出しているものなんです。まだ議会には出てこないけど。正式な条例化にはもう少し時間がかかるのかなと。
我妻委員長	遠田商工会の役員もうちの方は2人いますから、条例化する目的はお二方がもっとよく分かると思いますが、ただ私が気になったのは今までもこの内容はね、例えば金融機関とかの貸し付けの、融資のあっせんとか、補助金の交付とか、この辺はそれぞれ今までだって個別のそれぞれの条例なり規則なりでやってきていると思うんですね。それをどういうふうに、この条例化した意味ね、その辺は逆に遠田商工会が求めていることと裏返しになるかもわからない、関連しているのかと思うので、商工会の方でどういう目的で求めているのかという、それは。

山岸委員	だいたいこれの原点は、中小企業基本法、そっちのほうから来て、今、地方創生というふうに再三言っているそれに伴っての地方の自治体の条例化しようというそういう部分で、要するに我々中小企業でも零細企業、零細事業者をいくらかでも振興できるように、継続できるようにというのを条例をもって町でも支援していただいているような、そういう大きな目的があるのかも。
我妻委員長	これまで個別にやられている中での話で、やってきているのもありますよね。
前原委員	さっき委員長が言ったように、いろんな補助制度とかお手伝いしますよという制度はあると思うんですよ。それをある意味私を感じたのはまとめる意味での、「体系化して」の声）すべてにおいて。それが今まではこう窓口がいっぱいあったので。
我妻委員長	そうするとこれまでのこの、今言ったあっせんとか事業補助とか金融の融資あっせんとか、そういった個別のいろんな助成制度はやってきたと思うけども、それだとかやってまとめることについての意味、「まあこれからだと思うんですけど」の声）その辺についてどういった位置づけで条例が制定されたのか、その辺の経過をお聞きするということでもいいですかね。うちの方もね、この個別的なものはあるんで、それらが体系化されることにより、体系化される意味と目的だね。おそらくこれだけでもないんだよね。これとさっき言ったようにこの産学官連携とこの辺関連付けてお聞きできればなと、この条例だけ独立して聞くことでもないと思うんでね。
前原委員	この小規模事業振興条例自体はできたばかりなので、果たして…。
我妻委員長	これでどうなったかじゃなくて、条例制定に至る経緯というか目的、さっき言ったようにうちの方と同じように、おそらく個別的な制度はあったと思うのね。それを条例化して体系化した目的というか、それと…。
山岸委員	要するに、この責務みたいなところに書いてあるんだけど、できれば工事の発注なり商品の注文は地元業者を使ってくださいね、というのを条例化しようという、条文に入ってるのさ。なるべく機会の増大に努めようとするという。
我妻委員長	だからこれまで個別政策と、この条例化により体系化する意味と目的と条例制定までの経過というか、そういうことで、この作った後どうなったまでは、これまだ4月施行だから、まだその成果じゃなくて、「成果は分からない」の声）これまでの個別政策を踏まえて条例化までに至った経緯と目的ということで、そういうことでいいですかね。新たに加わったものもあるかもしれないしね。「今までなかったものが条例化したからね」の

	声) これまでの個別政策との関連を踏まえた条例制定までの経過についてでいいかな。
吉田議長	一つについては今のでいいと思うのね。条例を制定するまでに至った経緯、結局過去の10年以上前からのやつがあるわけだから、それに関連してるのか、さっき副委員長さんが言われたようなことで全国的にそういう動きがあるということだけではないんじゃないのかなという思いはあるんだけど。そこはまず一つだと思うのね。 それと、条例制定は当然4月のようにだけれど、この条例によって、まあうちの町は条例がなくてもいろんな施策をもって応援体制を組んでいるんだけど、この条例によって市の施策がどういうことをやっているのかということも当然範疇に出てくるのではないかなと。
我妻委員長	条例制定により新たに加えられた施策なんかも。
吉田議長	市の施策にすれば。あるかどうかは分からないよ。
我妻委員長	これまでの施策との関連を含め、制定までの経過。あと条例制定によって新たに加えられた施策はどうか。
吉田議長	特にありませんって言われるかもしれないけどさ。今までのとおりですって。
我妻委員長	これまでの経過と、新たに始まった施策があるのかどうか。(「4月からだから」の声)
吉田議長	4月1日だから、要するに新年度からということだから、条例制定を踏まえて新年度の予算の中で何か前倒しで考えていたのか。もちろん条例を制定するにはその29年4月以前に制定して1日ということだから。だから3月議会か12月議会でやり取りがあったんだと思うんだけどさ。そうすれば、裏を返せば新年度予算のやつにも当然反映できることになる。
我妻委員長	大きく言えば、これまでの制定までの経過と制定されたことによって新たに加えられた施策があるかどうか。(「施策にどういうふうに反映されているか」の声)大きく2つでいいですね。
吉田議長	いいんでないの。このSCBという信金のやつの4ページ、これは中小企業農商工連携促進法認定に基づく支援措置というのがあるけど、それぞれの補助金とか融資とかがいろいろ(「こういうのもあるんだわね」の声)これにだって当然、市ではなくて別の方だと思うけど、ただこれに対しての残った部分について市の補助体制や支援体制がもしかしたらあるかもしれないから。
我妻委員長	こういう支援もこれまでの施策の中で関連ではあるんですよ。それらの支援とかあっせんとかそういったものとこの条例がどういうふうに作ら

	れたか、そういう関連も出てくると思うのね。条例とかについては、どういふのをというふうに向こうから聞かれた分については、今言った大きく2つ。（「そんなところでないか」の声）あとは一番目では別に言われてないでしょ。
高橋主事	そうですね、特別言われてはないですが、もし具体化できるのであれば、先方にとってもその方がありがたいのかなというところもあるかと思いますので。
我妻委員長	まあ、どういうところと連携されているのかはこの図を見れば分かるからね。副委員長とも話したけども、うちの方は宮城大学との連携もしているけどばらばらじゃないかと、宮城大学のいろいろな支援は支援、産業振興課でやっているもの、そういったものを、これを見ると一堂に連携を取り合っている、横のつながりもね、連携を取り合うというそういったところをうちの方ももう少し勉強してもいいんじゃないかと副委員長とも話し合った。このとおりこんな大きいものにはうちの方ではできないけど、できるところでは、さっきの麦わら帽子も関係してくるけど、町内でのいろいろな横のつながりをね、うちの方が果たしてこういうふうに組織化されているのかというとその辺は全部産業振興課が頭を悩ませながら努力はしているんだけど。その辺どういうふうなつながりが取れているのか。 事務局が商工会議所になっているのね。さっき言ったように気になるのは農業団体との関連がどうなっているのかなと、我々としてみれば産業の中に農業は足利では含まれてないのかなというのが気になるよね。ただ一方では農商工連携では小麦・大麦が、こういう農業に関連したものが現れんとして動いているんでね。その辺を言って聞いてみて、農協JAとか農業団体との関連がどうなっているのかというのを一つは・・・。（「一つもないんだな」の声）ないんだね。（「これは商工中心の産学官ではないのかな」の声）だと思ふんだよね。ただ我々としては、これはこれとして、駄目とかなんじゃなくて、これをベースにしてやりながらの農業団体、農協中心のね、そういうところの連携はどうなっているのかというのをどのように考えられてきたのかというのは聞いてみてね、全く無視しているわけではないと思うし、やっぱり経過があると思ふんだよね。ここに申し込みの項目の中には「センター」と入れたかったんだけど、産学官連携の取り組みについてだけにしたんです。「センター」といわれるとこの組織そのものになってしまうんで、センター組織そのものを聞くのではなくて、足利市として産学官連携をどうしているのかという中にこの柱としてセンターの取り組みはあると思ふんだけど、このセンターのことだけで聞くと広がらないから、その中にこのセンターの構図を見ると商工会中心だけでも農協との

	農業団体との農業生産者との関連はどうなっているのか、そうするとさっきの3つ目の農商工連携のやつとも連動してくるのね。
山岸委員	こっちも産学官連携の取り組みについてとなると、結局こいつでしょ、あしかが産学官連携推進センター……
我妻委員長	だからわざと組織の名前入れなかったの。ここに産学官連携と農業団体って入れれば良かったのかな。(「入れない方がいい」の声) 入れない方がいいよね。
櫻井委員	あるんだよ、ここに。財団の栃木県南地域地場産業振興センターって。これはおそらく農業関係も入っていると思うんだよな。
我妻委員長	ただそのつながりはあると思うんだけど、(「その産業振興ね」の声) J Aとかってというのが正式に入っていないわけ。
櫻井委員	一番はいいんでないの、この文面で。市の取り組みについてということでもいいと思うよ。
我妻委員長	センターってかえて入れない方がいいよ。センターと言うとこの組織について聞きたくなってしまうからね。
櫻井委員	市でどういう取り組みをしているかに。
我妻委員長	市としての考え方を聞きたいと。そうすると柱としてはこの推進センターの説明をしてもらうけども。これを説明受けたなら、さっき言ったように、向こうから説明されればいいけども、されなくても我々は農業地域なので参考までに考え方ってということで農業団体とはどうなのかっていうのを聞きたいなと思うし。 今、櫻井さんから言われたように、産業技術センターとか、いろんな地場産のものも入っているの、そういうつながりで農業につながるのをやっているっていう、組んでいるのかわからないけど。
鈴木委員	私が見た感じでは、例えば民間業者の笠原産業さんっていうのは、ここにも写真がありますけども、個人でこうやってカントリーエレベーターを持っているような製粉業者さんなので、例えば宮城県では、この近くでは、ナカリさんとか、菅原さんとか、ああいう企業で農家から米を集約、こっちは米ですけど、麦を集約、集めているような会社なので、たぶんその笠原産業さんのつながりの農家の生産者なんだと、私はそういうふうに捉えていたので。それで、例えば農協さんとかそういう関わりはあまり多くないかなと。
我妻委員長	それはね、笠原産業だってこっちの大麦の方だって農協とのかかわりはあまりないような気がするの。市の方でいえばさっき産学官のこれを見ても農協って出てこないわけ。だからその辺がある意味では、現に農業もしないで結構大きいわけだから、農業との関わり、市としてね、圧倒的に商

	業工業の街だっというふうに見えないから、その辺はそこをあまり文章で聞かなくていいよね。行った中で、市としてそういう農業生産者とかそういったものについてどのように関わりを持っているのか、それは行った中で聞いてみる。さっき出た話としては、うちの方はほとんど農業が基幹産業で、農協や農業者団体との関わりをしたいのだけどもと、その辺の聞き方で向こうから行った段階でそういう関わりも聞いてくるということかどうかね。文章でそこまで書いてしまうとちょっと堅くなってしまって、それをメインに聞きに来るのかと。
藤田議員	ここにも書いてあるみたいに、企業経営者に直接なんだよね、生産者が。
我妻委員長	だから、農協とのかかわりというのはどっちも少ない。だから、このままうちの方が真似てやろうといってもそれは違う条件だから。ただ、産業政策として市が関わっているはずだから、その辺どういうふうにバランスをとって施策をされているのかというのは、その辺もう少し資料を見ていただいてそれぞれ皆さんに準備していただいて、他の委員会みたいに追求しに行くわけじゃないから、お聞きしに行くんで。いいですか。 (「はい」の声) こういった内容で正式に申し込んで、あと詳細は日程とか業者をどこに、あそこか、事務局でいつも頼んでいるところ、(「はい」の声)ではそういうことで、一応所管事務調査について以上で終わりたいと思いますが、一旦閉めていただいて。
山岸副委員長	私たちの常任委員会の所管事務調査ということで内容について今説明させていただきました。日程も7月の20、21日ということで説明されておりますので、あとこの資料をですね、皆さん良く、少し読んでいただいて知識を深めていただいて、視察の際に質問していただいて勉強してくるという日程でございますので、よろしくお願いしたいと思います。以上これで今日のところは閉めさせていただきます。大変御苦労さまでした。
	閉会 10:13

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

総務、産業、建設常任委員会

委員長